

三重県における外国人宿泊者の現状分析

平成 27 年 8 月
三重県戦略企画部統計課

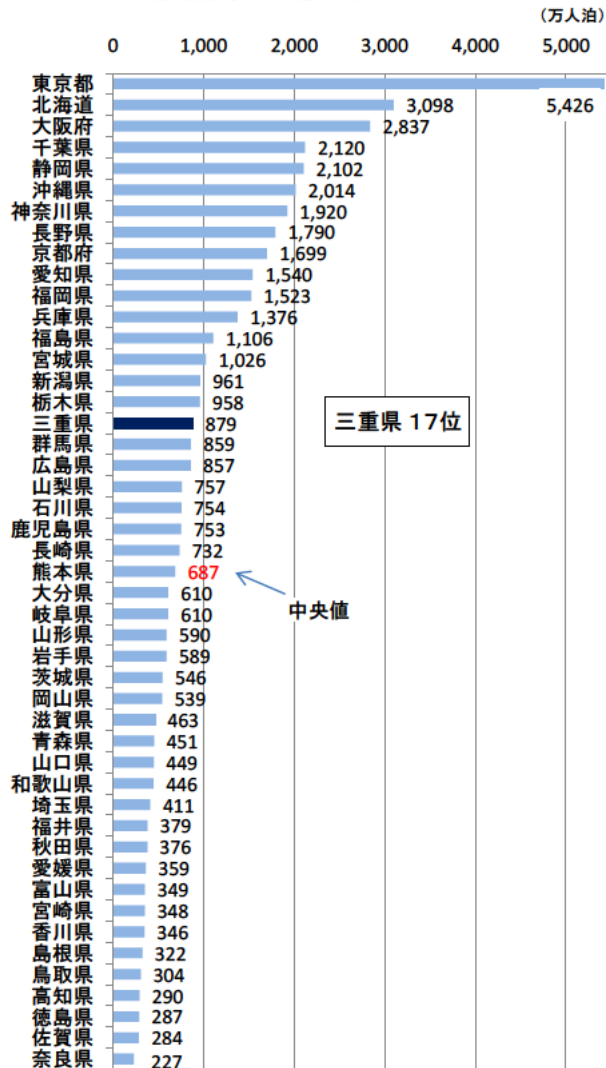
訪日外国人旅行者は、政府の「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」(2014,2015)によるビザ発給要件の緩和等取組に加え、円安の影響もあり、平成 23 年の震災以降急激に増加してきています。

それに伴い、国内の宿泊施設への外国人宿泊者数も増加しています。そこで今回のレポートでは、観光庁の「宿泊旅行統計調査」により、三重県における外国人宿泊者の現状について分析しました。

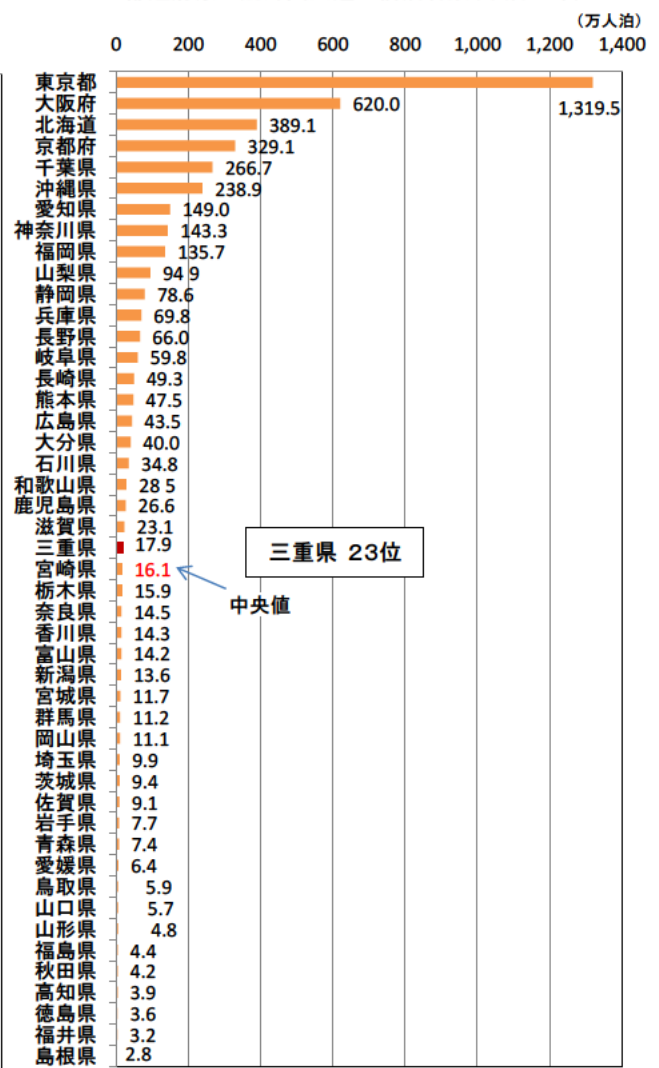
1 延べ宿泊者数と、うち外国人延べ宿泊者数

都道府県別に平成 26 年年間の全体の延べ宿泊者数と、そのうち外国人の延べ宿泊者数をみたのが次のグラフです。

〔図 1〕 都道府県別の延べ宿泊者数(平成26年)



〔図 2〕 都道府県の別外国人延べ宿泊者数(平成26年)

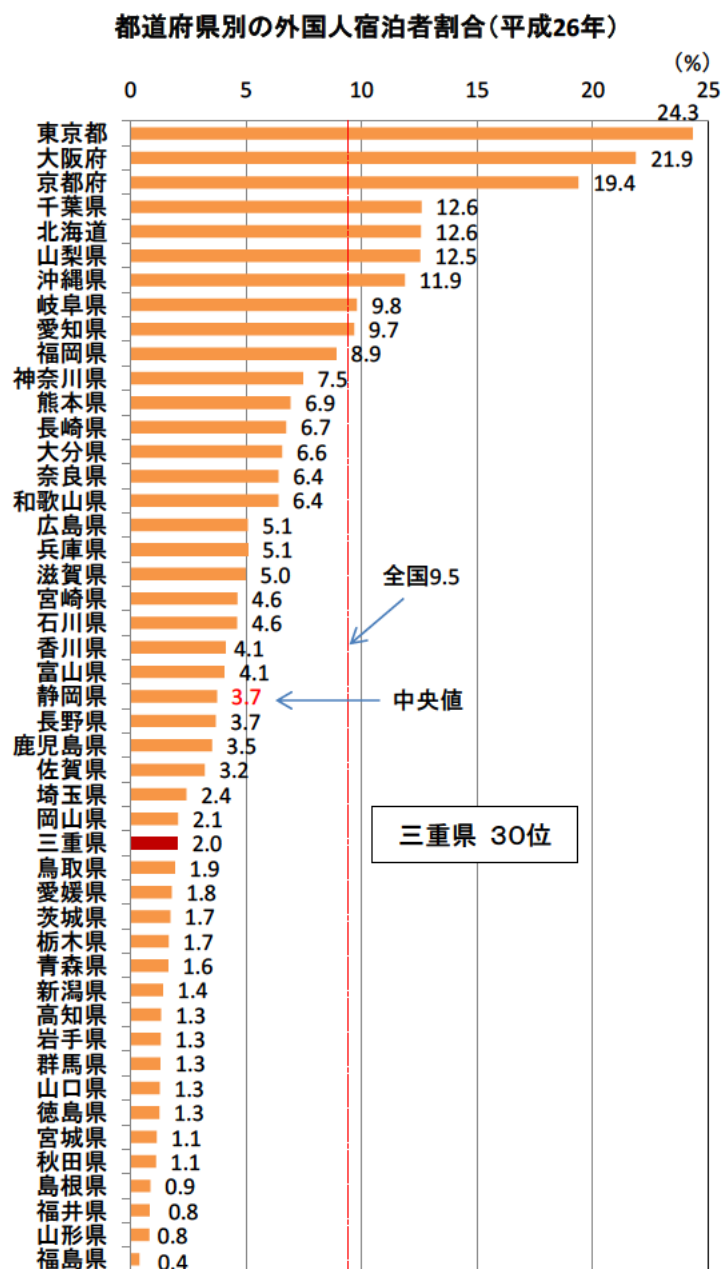


- 三重県における平成26年度の延べ宿泊者数は879万人で全国17位、外国人延べ宿泊者数は17万9千人で全国23位と都道府県の中央値より上位となっている。
- 都道府県別の外国人延べ宿泊者数は格差が大きく、下位24県の合計は全体の4.7%に過ぎない。(日本人を含む延べ宿泊者数では、下位24県の合計は全体の21.7%)

2 外国人宿泊者の割合

都道府県別に平成 26 年の全延べ宿泊者数に対する外国人宿泊者数の割合をみたのが次のグラフです。

〔図 3〕



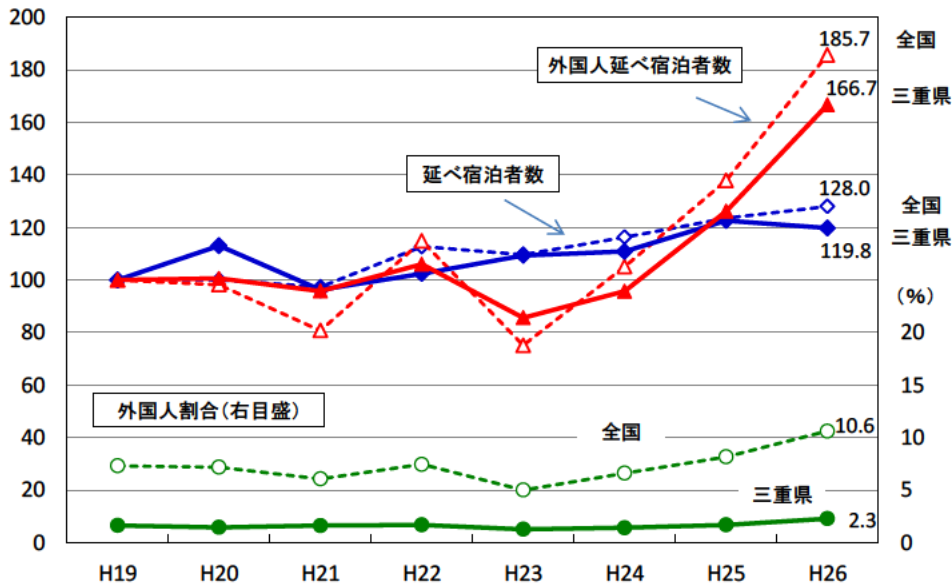
- 外国人宿泊者の割合は、三重県は2.0%で全国30位。
- 近隣県では岐阜県が9.8%(全国8位)、愛知県が9.7%(全国9位)と高くなっている。
- 都道府県のうち38県が全国平均の9.5%を下回っている。

3 三重県の外国人宿泊者数の推移

三重県及び全国の延べ宿泊者数の推移について、データのある平成19年から26年の推移及び平成19年～26年の増加率の都道府県順位をみたのが、次の図表です。

※時系列をみるため、従業者数10人以上の施設についてのデータで比較しています。

〔図4〕 延べ宿泊者数(平成19年=100とした指数)及び外国人割合の推移
(従業者数10人以上の施設)



- 外国人延べ宿泊者数は三重県、全国とも23年の東日本大震災で大きく落ち込んだが、平成24年に増加に転じ、その後急増している。
- 三重県は、遷宮があった平成25年に全体の延べ宿泊者数が増加したが、平成26年はその反動もあり減少している。

〔表1〕 延べ宿泊者数の平成19～26年増加率の都道府県順位
(従業者数10人以上の施設)

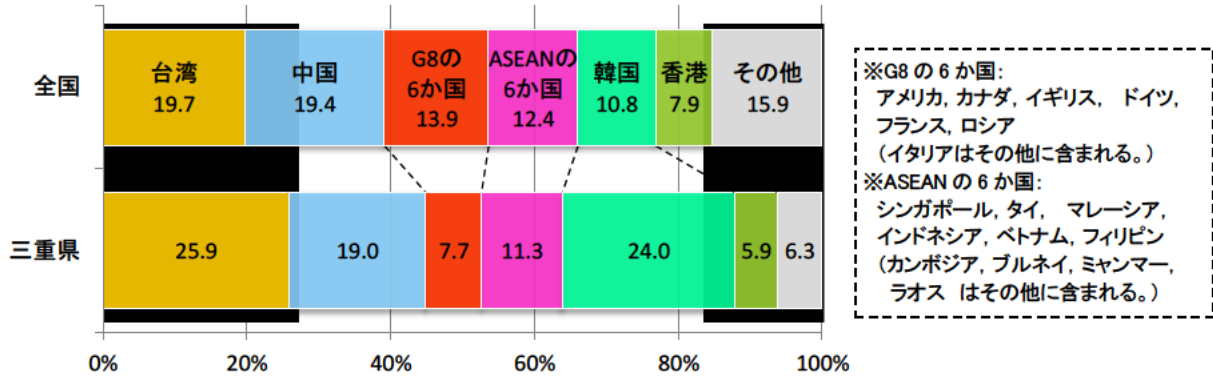
延べ宿泊者数			外国人延べ宿泊者数		
順位	施設所在地	増加率	順位	施設所在地	増加率
	全国	28.0		全国	85.7
1	大阪府	62.2	1	沖縄県	850.1
2	福岡県	56.8	2	鳥取県	216.8
3	京都府	55.2	3	香川県	209.8
4	神奈川県	52.2	4	京都府	205.2
5	奈良県	49.0	5	岐阜県	173.6
6	島根県	43.8	6	和歌山県	150.9
7	沖縄県	43.4	7	鹿児島県	138.7
8	石川県	41.5	8	大阪府	137.8
9	広島県	39.9	9	山梨県	133.2
10	茨城県	37.8	10	福岡県	118.5
12	岐阜県	36.8	11	奈良県	108.8
18	滋賀県	30.3	21	三重県	66.7
19	愛知県	27.7	22	静岡県	66.3
23	静岡県	23.2	24	滋賀県	59.8
26	三重県	19.8	29	愛知県	42.4

- 三重県は延べ宿泊者数の増加率は19.8%で全国26位、うち外国人の増加率は66.7%で全国21位であるが、全国平均と比べるとかなり低い。
- 近隣県では、延べ宿泊者数の増加率は京都府、奈良県が高い。うち外国人は京都府、岐阜県、和歌山県、奈良県が高く、これらの県はいずれも7年で2倍以上となっている。

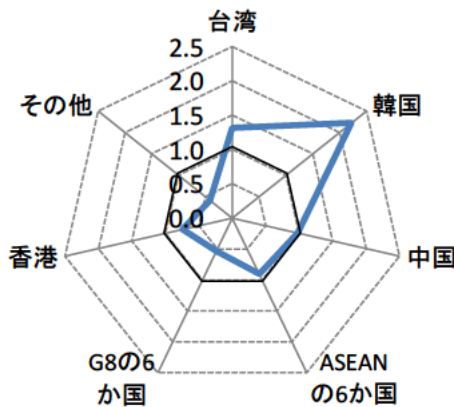
4 外国人宿泊者の国籍別構成比

全国及び三重県の外国人延べ宿泊者数の国籍別構成比をみたのが図5-1のグラフで、三重県の特徴を全国比較で把握するため、特化係数をみたのが図5-2のグラフです。

〔図5-1〕 外国人延べ宿泊者の国籍別構成比(平成26年)
(従業者数10人以上の施設)



〔図5-2〕 特化係数(三重県)(平成26年)



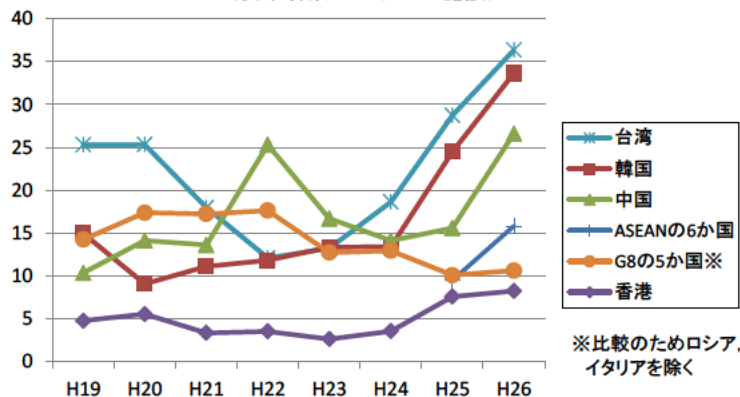
三重県及び近隣県の特化係数

	三重県	愛知県	岐阜県	静岡県	滋賀県	奈良県	和歌山県
台湾	1.31	0.65	1.38	0.96	2.16	0.65	0.65
韓国	2.22	0.45	0.45	0.44	0.56	0.51	0.51
中国	0.98	1.85	0.62	2.42	0.69	1.85	1.85
ASEANの6か国	0.91	1.40	1.38	1.14	0.68	0.41	0.41
G8の6か国	0.53	0.83	0.81	0.49	0.60	1.34	1.34
香港	0.74	0.55	1.23	0.17	1.37	0.39	0.39
その他	0.41	0.83	1.13	0.45	0.65	1.18	1.18

- 全国、三重県とも台湾の割合が最も高いが、全国は次いで中国、G8の6か国の順であるのに対し、三重県は韓国、中国の順。
- 三重県は、韓国の割合が24.0%(特化係数2.22)と高く、G8の6か国が7.7%(特化係数0.53)と低い。G8の6か国の特化係数は、近隣県では奈良県と和歌山県が同じ1.34で高い。

次いで、三重県における外国人宿泊者について国別に推移をみたのが次のグラフです。

〔図6〕 三重県における国籍別外国人延べ宿泊者の推移
(従業者数10人以上の施設)

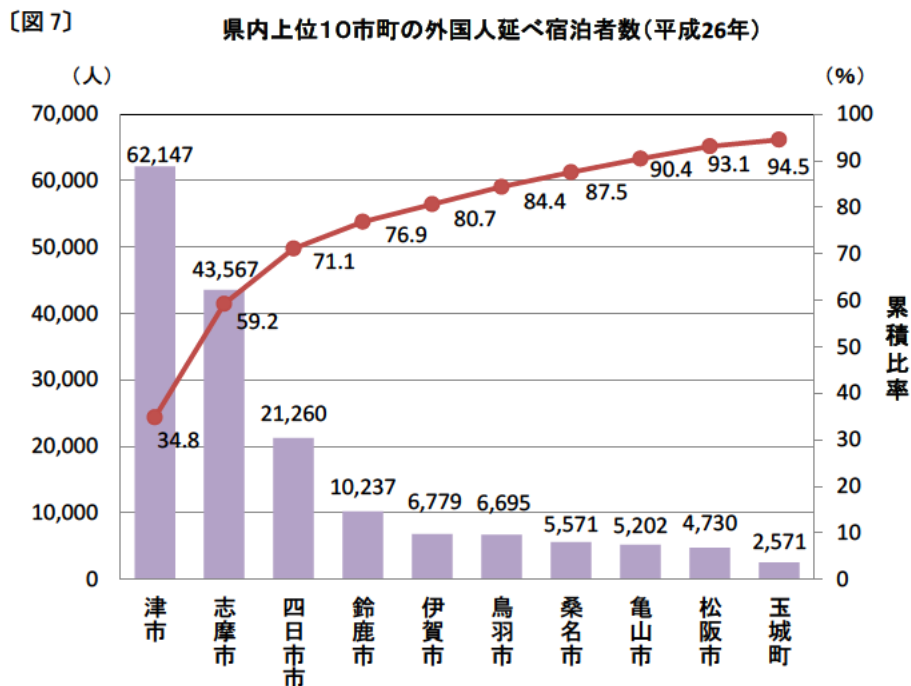


	延べ宿泊者数(人)		増加率 (%)
	平成19年	平成26年	
合計(不詳含)	90,320	150,580	66.7
韓国	14,950	33,650	125.1
中国	10,340	26,590	157.2
香港	4,740	8,230	73.6
台湾	25,290	36,360	43.8
G8の5か国※	14,230	10,600	-25.5
ASEANの6か国		15,800	-

- 台湾は平成24年から、韓国は平成25年から、中国は平成26年から急増。
- G8の5か国は平成23年から減少傾向。

5 県内市町の状況

県内の市町における外国人延べ宿泊者数について、県内市町別の外国人延べ宿泊者数上位10位をみたのが次のグラフです。



- 県内では、津市及び志摩市での宿泊者数が多く、この2市で県全体の約6割(59.2%)を占めている。

6 まとめ

- ◎三重県における外国人宿泊者は、宿泊者の国籍、宿泊施設の市町に偏りが大きく、これまでは特にサミット(G8)参加国からの宿泊者が少ないうえに、減少傾向にあります。
- ◎来年5月の伊勢志摩サミットを契機に、G8参加国を含め多くの国々から三重県への宿泊者が増加するとともに、サミットの会場である伊勢志摩はもとより県内各市町への宿泊者が増加することが期待されます。